

平成30年6月4日

久留米市議会議長 佐藤 晶二 様

広域連携推進調査特別副委員長 永田 一伸

委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、報告書を提出します。

記

- 1 日 程 平成30年5月17日（木）
- 2 派遣先 福岡県柳川市：広域観光・インバウンドの取り組みについて
及び内容 福岡県うきは市：観光振興の取り組みについて
- 3 派遣委員 副委員長 永田 一伸
委 員 田住 和也 松岡 保治 森崎 巨樹
田中 貴子 原 学 塚本 弘道
森 多三郎
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随 行 大野 誠 志岐 明洋
理事者 広域行政推進課長 土居 美佳
観光・国際課長 眞子 克彦

視察報告書

委員会名	広域連携推進調査特別委員会
視察日時	平成 30 年 5 月 17 日（木） 午前 10 時 ～ 午前 11 時 20 分
視察先・概要	福岡県柳川市 人口：約 6 万 7 千人 面積：77.15 k m ²
視察内容	広域観光・インバウンドの取り組みについて
選定理由	近隣自治体と広域連携した観光の取り組み、インバウンド（外国人旅行者）観光や戦国武将をテーマとした広域連携の取り組みを本市における広域連携観光の参考とするため
調査概要	<p>柳川市議会田中議長の挨拶に引き続き、産業経済部観光課の犬塚係長より、柳川市の広域連携による観光の取り組み、インバウンド観光や戦国武将をテーマとした観光の取り組みについての説明を聴取し、質疑応答を行った。</p>  <p style="text-align: center;">＜視察の様子：柳川市＞</p>
調査内容	<p>柳川市では、平成 2 1 年 3 月に「柳川市観光振興計画」を策定しており、その中で観光まちづくりを中心に据えた観光事業群として、「広域連携」「インバウンド」など 8 つを柱として観光振興に取り組んでいる。</p> <p>広域観光については、近隣自治体などと連携した取り組みとして、筑後七国活性化協議会のような近隣自治体との連携のほか、九州文学観光ルート協議会や九州のひなまつり広域振興協議会のように遠隔地の自治体と連携している事例もある。そのほか、</p>

	<p>佐賀空港を活用した佐賀県との連携や、西日本鉄道と連携した広域観光の取り組みも行っている。</p> <p>また、広域観光の取り組みの一環として、大河ドラマ招致委員会を設立し、立花宗茂を題材としたNHK大河ドラマ招致を目指している。</p> <p>今後は、テーマごとの連携や各協議会の趣旨に沿う形での統合が必要ではないかと考えている。</p> <p>インバウンドの取り組みについては、旅行博や商談会への参加やツーリズムエキスポジャパン、海外での旅行博や見本市への出展をしている。また、PR動画の作成やフリーWi-Fi、多言語翻訳アプリの導入など、受け入れ環境の整備にも努めている。</p> <p>今後も受け入れ環境の整備に努めて、インバウンドを推進していく。</p>
<p>主な質問・応答</p>	<p>問：広域観光の連携を進めるにあたっての課題として、どのようなものがあるのか。</p> <p>答：広域になるとどうしても自治体間で取り組みの温度差が出てくる。また、意思決定に時間がかかり、スピード感がなくなってしまふ。そのため、テーマで連携し、やれる自治体とスピード感を持ってやるというスタンスが必要ではないか。最近では、旅行会社も物語がないと興味を示さないの、そういった点にも注意しなければならない。</p> <p>問：久留米市との広域観光の連携についてどのように考えているのか。</p> <p>答：柳川市とは同じ西鉄沿線であり、つながっているということや田中吉政で関係が深いので、何らかのテーマで連携ができるのではないかと考えている。</p> <p>問：インバウンドの入込客が、平成27年から急増しているが、その理由は何かあるのか。</p> <p>答：柳川市だけでなく、日本全体が同様の傾向であり東日本大震災がなければ、もっと増加していたと思う。柳川市は、台湾に力</p>

	<p>を入れており、外国人観光客の半分が台湾の方である。台湾にも観光大使がいて、SNSを活用した情報発信をしている。その効果があがっており、台湾人ブロガーが毎日来ているような状況である。観光のパターンとしては、福岡市に宿泊してそこを拠点に周辺を巡るというのが多い。久留米市は交通アクセスが良いので、福岡市のホテル不足で受けきれない分を取り込むことができるのではないかと考えている。</p>
その他（意見・感想）	<p>本市が広域観光に取り組むにあたり、川下りなど知名度の高い観光資源を持っている柳川市とは、新たな観光ルートづくりなど広域的な連携が必要と考える。今後、NHK大河ドラマ招致活動やインバウンドの取り組みなどについて連携して、地域全体の振興につながるような施策の検討が必要ではないか。</p>

視察報告書

委員会名	広域連携推進調査特別委員会
視察日時	平成 30 年 5 月 17 日 (木) 午後 2 時 20 分 ~ 午後 4 時 50 分
視察先・概要	福岡県うきは市 人口：約 3 万人 面積：117.46 k m ²
視察内容	観光振興の取り組みについて
選定理由	うきはブランドの確立に向け、意欲的にプロモーションを推進している先進地であること。また、本市が広域観光の推進を進めるにあたり、耳納北麓からうきは市にかけての広域連携について、可能性を検討し、参考にするため
調査概要	<p>うきは市議会 櫛川議長の挨拶に引き続き、うきは市うきはブランド推進課 熊懐係長、石井課長より、うきは市の観光振興の取り組みについての説明を聴取し、質疑応答を行った。</p> <p>その後、うきは市議会議員と意見交換を実施しました。</p>  <p style="text-align: center;"><視察の様子：うきは市></p>
調査内容	<p>うきは市では、観光のターゲットを 20 代から 40 代の女性にして、「うきはの女子旅」をコンセプトにプロモーションを行っており、動画も作成している。</p> <p>また、良質なフルーツが収穫できるうきは市の特徴を生かして「うきはテロワール」として、フルーツのブランド化を推進している。</p>

	<p>広域的な取り組みとして、県や近隣自治体と連携した情報誌への掲載による情報発信、旅行会社や福岡空港近郊のレンタカー会社への営業などを実施している。</p> <p>また、東京・新橋のアンテナショップ「福岡久留米館」でのイベント開催、交通会館での「うきはフェア」の開催なども行っている。そのほか、久大本線観光連絡会、みどりの里・耳納風景街道など広域でのプロモーションにも取り組んでいる。</p> <p>インバウンドの取り組みとして、インバウンドプロモーション用の動画制作や外国人対応のパンフレットの制作（英語・韓国語・繁体字・簡体字）、英語版のホームページの作成など受け入れ体制の整備に努めている。</p> <p>また、県や日田市、朝倉市などと広域連携して外国人ブロガーの招聘も行っている。外国人へのアンケートにおいて、うきは市を知った理由として、ブロガーという回答がふえており、一定の効果があがっていると考えている。</p>
<p>主な質問・応答</p>	<p>問：観光のターゲットを20代から40代の女性としてプロモーションを実施してあるが、その実績はどうか。</p> <p>答：県の調査によると、平成28年度のうきは市への入込客数は210万人から220万人だったのが、平成29年度は225万人へと増加している。近年の傾向として、大型バスによる入込客が減少し、マイカーへ変わってきている。</p> <p>問：うきは市はフルーツ狩りを推進してあり、パンフレットも制作してあるが、1年を通してフルーツ狩りができるのか。</p> <p>答：5月上旬から6月までフルーツ狩りができない時期なので、現在トマトの活用を考えている。</p> <p>問：久留米市はラーメン、うどんと麺類に力を入れているが、うきは市の麺と連携して売り出すことはできないか。</p> <p>答：ぜひ、久留米市との連携を考えたいと思う。</p> <p>問：これからの人口減少社会の中で、交流人口をふやすために滞</p>

	<p>在時間を延ばす環境整備をどのように考えているのか。</p> <p>答：吉井の白壁の町並みには宿泊施設がないので、民間の方が古民家を活用して白壁の町並みに宿泊できないか民泊の検討をされて、動き出している。</p>
その他（意見・感想）	<p>久留米市が広域観光を推進していく中で、耳納北麓からうきは市までのフルーツでつながるルートは重要と考える。質疑後の、うきは市議との意見交換においても、それぞれの長所を生かした広域観光の取り組みの必要性についての意見もでており、今後の取り組みについて検討が必要と考える。</p>